

A horizontal banner image featuring several pink, spiky flowers, possibly from the Asteraceae family, set against a soft, out-of-focus blue background. The flowers are the central focus, with their delicate petals and stamens clearly visible. The overall aesthetic is clean and natural.

高山右近とのツーショット



「右近さん。こんにちは。
久保田典彦と申します。
高槻市にある「阿武山福音自由教会」の
教会員です。

あなたが高槻城主をされていた高槻で生
まれ、高槻で育ち、20歳（はたち）の時
に洗礼を受け、66歳の現在まで、高槻の
地で過ごしてまいりました。

あなたのこと、『高山右近研究』を、ラ
イフワークにしています。」



「右近さん。あなたは、12年間、高槻城主でしたね。21歳～33歳までです。この間(かん)、キリシタン大名として、キリスト信仰に基づいた生き方、そして町づくりをすすめてられました。

宣教師の報告によりますと、天正9年(1581年)、2万5千人の領民の内、1万8千人がキリシタンであったと記録されていますよネ。何と72%になります。10人中、7人がキリシタンだったということです。

このような、あなたや当時のキリシタン達の信仰や生き方から、学んでいきたいと思っています。」



「右近さん。今の日本には、聖霊なる神によるリバイバルが起こっていません。日本国民1億3千万人の1%にもならないほどのクリスチャン人口です。右近さん。あなたが高槻城主だった、今から430年ほど前の高槻では、聖書の『使徒行伝』に記されているままの、聖霊なる神による、大いなるリバイバルのわざがなされていったんですよ。」



「右近さん。あなたが高槻城主だった頃、毎日、人々が救われていきました。家族単位で救われていきました。そして、バプテスマを受けていきました。聖霊によるリバイバルのわざがなされていったのですね。私も、右近さんと同じ、クリスチャンです。同じ、主なる神・デウスを信じています。右近さんと同じ、高槻にある教会の教会員なのです。」



「右近さん。雨の日も雪の日も、朝一番に教会堂に来て祈っておられたのは、右近さんとお父さんのダリオ飛驒守さんだったのですネ。

私も、祈っているんですよ。

聖霊なる神さまによるリバイバルを、この私から始めてください。そして、高槻36万人、大阪880万人、近畿2府5県2250万人、日本1億3千万人のすべての人たちに、ご聖霊による救いのみわざが及んでいきますように。」



「右近さん。あなたやキリシタン達に関心をもって、高槻を訪ねて来られる方々がおられます。今の高槻には、大禁教・大迫害の結果、何も残されていないに等しいのですが、皆さんを案内する時は、『何となく歩かないでくださいね。400年前、ご聖霊によって、大いなるわざ・リバイバルのわざがなされていた場所なのだということ覚えて、歩いてくださいね。』と言っているんですよ。」



「右近さん。天の御国・天国（パライズ）で、あなたとお会いできるのも、そんなに遠い日ではないでしょうね。楽しみにしています。

でも、どんな顔をされているのでしょうか。

その日を楽しみに、私に残された地上での生涯を、『へりくだりつつ、忠実に』励んでまいりたいと思います。

それでは、いつの日にか。
ハレルヤ！」